

議事録

会議の名称	令和6年度第1回戸田市総合教育会議
開催日時	令和6年9月19日(木) 13時30分 ~ 15時00分
開催場所	戸田市役所 4階 公室
出席者氏名	市長 : 菅原文仁 教育長 : 戸ヶ崎 勤 委員 : 仙波 憲一 委員 : 木村 雅文 委員 : 長道 修 委員 : 浜田 美咲
出席職員	教育委員会事務局 部長 : 川和田 亨 参事 : 梶山 浩 教育政策室 室長 : 片境 俊貴 担当課長 : 杉森 雅之 教育総務課 課長 : 金澤 哲 学務課 課長 : 河西 誠 学校給食課 課長 : 増澤 直哉 生涯学習課 課長 : 鎌田 陽子 課長 : 高屋 勝利
事務局	市長公室 室長 : 内山 敏哉 主幹 : 本山 翔太 主任 : 坂成 泰宏
欠席者氏名	
議題	(1) 戸田市教育の対外的PRについて(少子化対策、子育て世帯の定着にも資する発信について) (2) 健全な教育環境確保のための住宅開発抑制について (3) ラーケーションについて (4) その他
議事内容及び結果	各議題について市長及び担当より説明を行った後、委員と意見交換を行った。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別添のとおり
傍聴人	0人
議事録調製	坂成 泰宏

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>定刻となりましたので、只今から「令和6年度第1回戸田市総合教育会議」を開催させていただきます。</p> <p>はじめに、菅原市長からご挨拶をお願いしたいと存じます。よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>皆さん、改めましてこんにちは。令和6年度の第1回目の総合教育会議ということで、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>本日は、教育の対外的なPR、健全な教育環境確保のための住宅開発抑制の見直し、そしてラーケーションについて、提案させていただきます。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>それでは、本日の議題に入らせていただきます。会議の進行につきましては、市長よろしくお願いたします。</p>
市長	<p>教育日本一を目指して、市長に就任した当初から教育に力を入れてまいりました。戸ヶ崎教育長をはじめ、教育委員、学校長、教職員の皆さんの粉骨砕身の努力により、最新鋭の教育と誰一人取り残さない教育が実現し、全国に注目される戸田市の教育体制が整いましたことに感謝しています。</p> <p>当初、戸田市は子どもがどんどん増えているまちであり、この増加を基に教育の質を高く保ち、住み続けてもらえるまちを目指して教育に投資してきました。予算をしっかりとつけ、質の高い教育者とスタッフ、最新鋭の機器を導入し、他市に誇れる教育体制を築いてきたのですが、データを取ると子どもの増加が予想外に変わっていることがわかりました。</p> <p>特にコロナの影響で前提条件が大きく崩れ、地価の上昇、オンラインDXの推進などで働く環境が変わっています。このような状況の中で、戸田市の教育をもっと知ってもらい、少子化対策を含む解決策を講じる必要があります。今日の議題としてこの三つを提案させていただきます。</p> <p>まず議題の1の1ページ目をご覧ください。直近5年の合計特殊出生率の推移を見ると、コロナ禍もあり、戸田市は減少傾向にあり</p>

	<p>ます。</p> <p>次のページをお願いします。直近2年間を見ても衝撃的なことに、子育て世帯に限ると1,131人が転出している状況です。転出の内容を見ると、さいたま市、川口市、蕨市、上尾市などへの転出が多く、その次のページでは、23区からや地方、全国からの転入もありますが、転出は23区外や近隣の戸建て住宅、県北への移動が多いことがわかりました。これを食い止めるために少子化対策が必要です。こども健やか部を中心に現状を把握し、子育て支援策を再度強化することにしました。支援策として、以下の4本柱を想定しています。</p> <p>1つ目は情報発信イメージ戦略として戸田市の教育の魅力を広く伝えること。2つ目は子育て支援ということで子育て世代が安心して住み続けられる環境を整えること。3つ目はファミリー向け住宅の検討など住環境の向上です。最後4つ目として、若者が住み続けられる支援を行う、若者支援です。この流れで、教育のPRを対外的に進めたいと考えています。市外に限らず、これから保護者になる若い世代、幼稚園や保育園に通う子どもたちの保護者などにPRを行いたいと考えています。今日は委員の皆さんに戸田市の教育の魅力についてお話しいただき、それを発信するためのアイデアをお聞かせいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>今、市長もいろいろな危機意識や問題意識についてお話しいただきましたが、戸田市がいかに良いまちであるかを考えると、低廉で良質な公共サービスを提供できることが、人々が戸田市を評価する大きな要因ではないかと思えます。安くて質の良い公共サービスを戸田市の住民が受けられるということです。</p> <p>その中の大きな要因の一つとして、戸田市には質の高い教育が受けられるということをアピールすることが、市長の意図に合致していると思えます。戸田市の教育のアピールポイントは何かを考えると、まずはICT教育です。情報化を活用した先端的な試みが行われており、全ての教室にプロジェクタが導入されているなど、戸田市で教育を受けることで多くの面白い機器が利用できることが売りになると思えます。</p> <p>さらに、教える内容も重要です。いわゆるSTEAM Labのように、サイエンスやテクノロジーなどのさまざまな分野の勉強ができる</p>

	<p>設備が戸田市にはあります。これは一校だけではなく、これからさらに広げていくことが重要だと思います。先端的な ICT を使って質の高い教育を行っていることが、第一のアピールポイントになるのではないのでしょうか。教育長もしきりにそれをアピールしており、非常に誇るべきことだと思います。</p> <p>また、これらを運営する教員や事務局の方々も非常に熱心に取り組んでいます。ICT や DX を推進できる人材も配置されており、教育改革を進めるためには欠かせない要素です。さらに、戸田市では、業務委託により ICT の専門的知識技術を有している支援員を学校に配置していることが先進的であり、これが教員の仕事の軽減にもつながり、働き方改革にも貢献していると思います。</p> <p>教科の専門の教員を増やすと同時に、ICT を動かせる専門教員や専門事務員を配置することで、教育の質が向上し、PR にもつながると考えます。多くの学校や大学でも同様で、こうした人材がいるところは成長しており、人も集まっています。</p> <p>同時に、教員の教える質の向上も重要です。研修会を通じてスキルアップを図り、教える質を高める取組が行われています。教員が学び、子どもたちが学ぶという好循環ができており、これをアピールすることが重要です。</p> <p>特に小学校や中学校の場合、授業料などはほとんど変わらないため、質の良い教育サービスを受けられることが大切です。教員の教育の質を上げ、負担を減らし、アピールできるシステムがあることが重要だと思います。一応三つの観点からお話しさせていただきました。</p>
市長	ありがとうございます。他にはいかがですか。
委員	オルタナティブプランは、全国的にも PR できる取組だと思います。今後はオンラインも含めた多様な学びの場を、小学校や中学校だけでなく、乳幼児から大人まで、市全体で考えていくことが重要です。特に、卒業後の子どもの居場所作りは若い世代の PR にもつながると思います。市として今後どのように取り組んでいくか、お考えをお聞かせいただければと思います。

	<p>もう一つ、「広報戸田市」で市長の「全力！まち取材」を毎月楽しみに拝見しています。市民が知ることのできない市内企業の内側や特色などをわかりやすく説明していただいている点や、企業とのつながりを作っていることは大変素晴らしいと思います。</p> <p>現在、学校で進めている戸田型 PBL においては、課題解決の場を学校内にとどめず、自分たちの住む地域に広げていく活動が多く実践されています。地域と学校が連携し、課題解決に向けて協働することは、子どもたちの社会参画を促すために大変重要です。市長がつながりを作られている企業や、他の市長部局でつながりのある企業との連携による学習を、もっと積極的に進めていくべきだと考えますが、いかがでしょうか。</p>
市長	<p>教育の PR という観点からは、受け入れる側も学校の良さを感じてもらえれば、良いと思います。例えば、今日午前中にあるお菓子屋さんに行ってきましたが、中学校の 3days を受け入れてもらうなど、地域の商店や企業とのつながりが重要です。しかし、教育の PR につなげるために、どのようなかたちで進めていくか、そして人口の流出や流入にどう影響するかは難しい課題です。</p> <p>もちろん、こういった取組はやっていく必要があると思います。ただ、これを進める際に、なぜその企業なのか、特定の企業に偏らないように調整していく必要があるかもしれません。学校主体で進める方が良い場合もあると思います。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>現在、学校の ICT 環境は文具としてかなり活用されており、デジタルホワイトボードなど教室環境も非常に整っていて、埼玉県内で誇れる環境だと思います。ただし、最近では家庭のデジタル化が進んでいるため、学校が逆に遅れている場合もあるようです。この点については、予算を投入するかどうか重要であり、学校でしかできない最先端のワクワクするような体験を提供することが大切です。例えば、メタバースや VR など、子どもたちが興味を持って取り組めるものを導入すれば、環境がさらに良くなり、研究も深まると思います。この点について、少しずつ予算をかけていただきたいと感じています。</p> <p>また、デジタルトランスフォーメーション（DX）についても、単</p>

	<p>なるデジタル化ではなく、デジタル技術を使って生活や仕事を便利にする改革と捉えています。こういったデジタル変革を推進できる人材育成や教育を進めることで、市民への大きなPRになると思います。市役所でもDXについて様々な取組が進められていますが、まずは教育から進めていただきたいと思います。</p>
市長	<p>ずいぶん教育は進んでいるのではないかなと思うのですがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>まだまだ取り組むべき課題はたくさんありますので、さらに、教育に力を入れていくことが大切であると思っています。</p> <p>現在、教員不足が深刻な問題となっています。良い教員を確保し増やすためには、戸田で働きたいと思ってもらえるような環境を整えることが必要です。市役所の職員の中で教員免許を取得している人が、学校で勤務できる制度を検討してはいかがでしょうか。</p> <p>私自身も教員時代、市の職員として指導主事を経験しましたが、学校から市役所に来たときには多くの新しい経験を積むことができました。学校現場の難しさも理解できましたし、その経験を市役所で活かすこともできました。このように、教員免許を持つ市役所職員が学校での経験を積むことで、教育現場の現状を理解し、戻ってからも役立つ制度を検討する価値があると思います。</p> <p>公立学校に出向して働くという取組は全国的にも珍しいと思いますが、戸田市が一丸となって取り組むことで、新しいモデルケースを作り上げることができるのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>確かに、教育委員会事務局で働く教員はいるものの、職員が学校現場に行くということは珍しいと思います。このことについては、以前から教育長とも話をしていました。無理やり行かせるのではなく、教職の免許を持っている職員が学校現場で働きたいと希望した場合、研修や出向、あるいはスポットで短期間の研修を受けてもらうなど、いろいろな形が考えられます。もう少し本当にできるのかどうか検討していきたいと思います。</p>
委員	<p>学校訪問や授業参観での授業の様子を見て感じるのですが、まずクロームブックの文房具化は非常に素晴らしい取組だと思います。さらに、全小中学校で黒板をホワイトボードに入れ替え、電子黒板機能付きプロジェクタが導入されたことも非常に画期的であ</p>

	<p>り、実際に使用されている様子を見て、その効果に驚かされました。これは大変魅力的な取組であり、発信していく価値があると感じます。</p> <p>一方で、授業参観などで目にしたことですが、すべてがデジタルで行われていることで、資料のダウンロードや動画が止まってしまうことがあり、授業の貴重な時間が止まってしまうこともあります。デジタル活用が進むほど、回線の負荷も増えると思われるので、さらなる環境整備が必要だと感じています。ぜひご支援をお願いしたいと思います。</p> <p>また、学校給食費の無償化についてですが、戸田市でも一時期実施されましたが、現在では東京都が全てを無償化する方向に進んでいます。物価高騰で家計が圧迫される中で、子育て世帯にとって非常にありがたい取組です。しかし、住む場所によって支援の格差が広がってしまうことに懸念があります。</p> <p>現在、戸田市では第3子以降の減免措置を実施しておりますが、戸田市の教育のPRという観点から、全ての子どもたちに所得制限を設けずに完全無償化することが、より大きなインパクトを持ち、保護者と学校双方の負担軽減にもつながると考えています。無償化についてどのようにお考えかお聞かせいただくと幸いです。</p>
委員	<p>もう一つ、オルタナティブプランについてですが、戸田市の不登校児童・生徒支援のための多様な学びの場が非常に充実していると感じています。不登校になる理由もさまざまであり、その支援の場が多様であることは本当に素晴らしいことです。これは戸田市の魅力の一つだと思います。</p> <p>今後、小学校にある校内サポートルームを中学校にも配置する計画があると聞いています。中学校では、心の寄り添いに加えて受験も関わってくるので、勉強を教えられる方を増やすことも必要だと思います。これには費用がかかるかもしれませんが、市としても支援をお願いしたいと考えています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>給食の無償化についてお話ししますが、東京都は圧倒的な財政力</p>

	<p>を持っており、埼玉県の予算の約 3 倍です。特に 23 区は戸田市に隣接しているため、東京都が半分の負担をすると他の町も乗る状況です。このため、全ての給食を無償化するには毎年 6 億円以上の予算が必要であり、それを現行の予算の中から捻出することは非常に難しいと感じています。</p> <p>また、ふるさと納税の流出も大きな問題です。昨年度だけで約 7 億円が流出しており、これが今後毎年 1 億円ずつ増加する見込みです。これにより、予算額や税収は増えても、投資したい分野に投資できない厳しい現状があります。他の市長も給食の無償化について注目しており、特に東京都内では既に実施されています。</p> <p>戸田市の魅力をどのように発信していくかが重要です。市外に戸田市の教育を PR するのは難しいため、まずは流出・転出を防ぐことが重要だと思います。現在住んでいる若者世帯の保護者に、小学校入学前に学校を見てもらい、戸田に住み続けてもらう取組が必要です。興味関心のある保護者が小学校の学習の様子を見学できる機会を作ることで、戸田市の教育の良さを理解してもらい、住み続ける選択をしてもらうことができると考えています。</p> <p>皆さんが考える具体的な PR 方策についても、ぜひお話をお聞かせください。</p>
委員	<p>今、市長がおっしゃったことで、就学前の子どもたちに学校を見てもらうというのは、まさにオープンスクールの一環です。大学が学生を集めるために行うオープンスクールと同じように、小中学校でも同様の取組が有効だと思います。実際に模擬授業を行ったり、施設を見せたりすることで、保護者や子どもたちに学校の魅力を伝えることができます。</p> <p>ただ、その際に学校側の負担が大きくなるのも事実です。準備や運営に多くのリソースが必要であり、教職員の皆さんにとっては大変な作業となります。そのため、オープンスクールの実施にあたっては、適切なサポートや支援体制が求められると思います。</p>
市長	<p>そのように思います。</p>
委員	<p>在校生を参画させることで、これから入学を検討している子どもたちに学校の魅力を伝えることができると思います。上級生が新入</p>

	<p>生に学校の中を案内したり、一緒に遊んだりすることで、より親しみやすく、安心感を持ってもらえるでしょう。</p> <p>大学のオープンキャンパスのように、模擬授業や施設見学を行い、実際に体験してもらうことで関心を引くことができます。この取組は確かに負担がかかるかもしれませんが、やってみる価値は大いにあると思います。実際に見て体験することで、戸田市の教育の良さを実感してもらい、住み続けてもらえるきっかけになるでしょう。</p> <p>また、参加者の数は人気度を示すバロメーターにもなり、どれだけ多くの人々が関心を持っているかを把握することができます。教員にも協力していただき、さまざまな催し物や体験イベントを行うことで、学校の魅力を最大限にアピールすることができると思います。</p>
市長	ありがとうございます。イメージが沸きました。
委員	<p>もう一つだけ意見があります。子ども対象だけでなく、親の居場所も大切です。親が戸田市に住んで「ここはいい場所だな」と感じることは非常に重要です。そのために、公民館や生涯教育の一環として保護者向けの市民教育を提供することが効果的です。</p> <p>特に小学生や中学生の保護者が、子どもが学校に行っている間に学べる場を作ってあげることが重要です。保護者にとって、学びの機会や仲間作りの場があることは大きな魅力です。公民館講座や現代講座などを通じて、保護者同士の交流を促進し、支援することが大切です。</p> <p>さらに、保護者同士のサークルやコミュニティ活動を支援することで、保護者にとっても居心地の良い場所を提供できます。戸田市が親にとっても子どもにとっても良い場所であることをアピールすることで、地域全体の魅力を高めることができると思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、続いてお願いします。</p>
委員	情報発信についても SNS などのデジタル媒体も重要ですが、実際に学校現場を見てもらうことの影響は大きいです。現場での体験を通じて親子に直接アピールすることが効果的です。

	<p>また、口コミの力も非常に強力です。実際に訪れた親子が「この前に行った学校はとても良かった」と話してくれれば、その評判が広がり、多くの人々に伝わります。こうして少しずつ評判が広がっていけば、確実に効果が出てくると思います。</p> <p>現場での体験と口コミを組み合わせた情報発信は非常に有効です。親子が実際に学校の魅力を感じられる機会を増やすことで、より多くの人々に戸田市の教育の素晴らしさを知ってもらうことができますね。</p>
<p>委員</p>	<p>確かに、見学会やプレ保育の取組は非常に有効です。幼稚園の経験からも分かる通り、年に数回の見学会を実施し、保護者や子どもたちに直接学校の雰囲気を感じてもらうことが大切です。</p> <p>子どもの数が減っている現状を踏まえ、早期に学校の特徴を知ってもらうためには、小学校の一日入学をギリギリで行うのではなく、もっと前に見学できる機会を増やすことが必要です。見学会を通じて、親と子どもが地域の学校の特徴を理解し、どの学校が自分たちに合っているかを知ることができます。</p> <p>また、市外の保護者にも見学の機会を提供することは、より多くの人々に戸田市の教育の魅力を伝える良い方法です。年に何回かの見学会を実施し、保護者や子どもたちが学校の教育内容や環境を直接体験できる場を提供することで、戸田市の教育の魅力を広くアピールすることができます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。続いてお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>見学会は非常に効果的な取組だと思います。実際に学校の環境を見て感じるができるのは大きなメリットです。電子黒板機能付きプロジェクタなど最新の教育機器を実際に目にすることで、子どもたちや保護者が学校の魅力を直接体験できることは、戸田市の教育の質を実感する良い機会になります。</p> <p>広報活動も重要ですが、おっしゃる通り、紙面だけでは伝わりにくい部分もあります。実際に見て体験することの効果は絶大です。戸田市のお祭りやイベントでブースを出し、体験コーナーやPBL(プロジェクト・ベースト・ラーニング)の紹介を行ってみたいかが</p>

	<p>でしょうか。</p> <p>家族連れが多いイベントで直接接触することで、親子ともに戸田市の教育に触れてもらい、その良さを口コミで広めてもらうことができれば、自然と評判が広がっていきます。これにより、戸田市の教育の質の高さをより多くの人に知ってもらうことができると思います。</p>
市長	<p>是非一緒にやりましょうか。朝市などでブースを出して戸田市の教育を PR するのは素晴らしいアイデアだと思います。多くの方に直接触れてもらう機会が増えます。また、皆さんにご賛同いただけて大変嬉しく思います。</p> <p>さらに、戸田市の教育の魅力を PR する動画を作成することも良い方法だと思います。デジタル化の時代ですので、短い時間で効果的に教育の魅力を伝える動画は、市内外の多くの方々に戸田市の教育を知ってもらう良い手段です。公式な動画を発信することで、戸田市の教育の魅力をより広く伝えることができるでしょう。</p> <p>これについては、具体的に何ができるのかを教育委員会事務局と考えていきたいと思っています。</p> <p>次に、議題の 2「健全な教育環境確保のための住宅開発抑制について」ですが、先ほど少し触れたように、人口は増加している一方で子どもの数は減少しているという衝撃的なデータが出ています。これにより、多くの学校で教室不足が発生し、新築や改築・増築を行ってきましたが、この 3 年間で児童数・生徒数は落ち着いてきています。</p> <p>今後、住宅開発抑制を見直す必要があるかもしれません。抑制を続けると人口が減少する可能性があるため、教育委員会と一緒に現状を確認し、今後の方針を議論していきたいと思っています。</p> <p>教育総務課から現状について説明していただき、その後で今後の見直しについて議論していきましょう。</p>
出席職員	<p>参考資料として提示している、児童生徒数と学級数の実績と見通しのグラフをご覧ください。住民基本台帳を基に、令和 6 年度までは各年 5 月 1 日の実績、令和 7 年度以降 12 年度までは、令和 6 年</p>

	<p>5月1日現在の人口をスライドさせた推計となっています。</p> <p>市長の話にもありましたように、グラフを見ると令和4年度までは児童生徒数が高い数値で増加していましたが、その後減少に転じています。また、新入学児童についても、令和4年度までは高い数値を保っていましたが、その後減少傾向にあります。</p> <p>小学校の学級数については、令和2年度から、毎年度、1学年ずつ1学級40人から35人に変更されており、令和7年度までは増加傾向にありますが、その後減少に転じる見通しです。将来的な増減は予測が難しいところもありますが、新曽北小学校に関しては、児童数が落ち着き、増築の必要性が急務ではなくなりました。しかしながら、キャパシティに対する学級数に余裕がない部分もあるため、北戸田駅前の整備も含め、今後の動きを注視する必要があります。</p> <p>他の学校については、児童数・生徒数が減少傾向にあり、市長がおっしゃったように、ここ数年で増改築を積極的に進めたこともあり、教室不足の課題が解消されています。このため、住宅開発抑制を緩和し、柔軟な対応をとることができるのではないかと考えています。</p>
市長	<p>ありがとうございました。今、説明がありました内容を踏まえまして、委員の皆さんからご意見を聞きたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>教室不足は、かつて非常に厳しい状況でしたね。当時の教育委員会では臨時会を開いて現地に出向き、通学路を歩いて保護者の声を直接聞いたことを思い出します。それだけ通学というのは重要な問題です。</p> <p>地域によって指定を解除するという考え方は非常に現実的だと思います。すでに増築が完了し、教室不足が解消できたところでは指定を解除し、厳しいところでは指定を維持することで、コストを抑えつつ柔軟に対応することができます。</p>
委員	<p>教室不足が解消された地域での指定解除は可能ですが、現時点でタイトな状況にある地域での指定解除は、市としてコストをかけて対応する必要があります。このため、どの地域で指定を解除するか</p>

	<p>については、慎重な検討が必要です。</p> <p>特に、教育環境を維持しながらコストを最小限に抑える方法を見つけることが重要です。地域ごとの状況を見極め、柔軟に対応することで、効果的な対策を講じることができると思います。</p>
市長	では、続いていかがでしょうか。
委員	<p>新曽北小学校の件についてですが、新曽地区の土地区画整理が進んでいく中で、マンションの建設が増える可能性があると思います。教育委員会の立場としても、土地区画整理事業の進行状況を見ながら、慎重に判断することが必要です。</p> <p>現状を把握しつつ、将来的な人口動態や地域のニーズに応じた柔軟な対応が求められます。地域の状況を注視しながら、適切な時期に適切な対策を講じることが大切です。</p>
市長	<p>新曽北小学校についての判断は、土地区画整理事業の進行状況を見ながら慎重に行う必要があります。市全体の方向性を考慮しながら進めていくことが大切です。今後のデータを精査し、厳しい判断をしなければならぬ時もあると思います。引き続き皆さんと情報を共有し、最善の対応を検討していきたいと思います。</p>
市長	<p>次に議題の3、ラーケーションについてです。これはもともと私が副会長を務めている全国青年市長会の勉強会で知った制度です。全国青年市長会は50歳までに市長になった約100人の若手市長が集まる組織で、その勉強会に愛知県の大村知事が発案し、実行に移した制度です。ラーケーションとは何かと言うと、休み方改革です。従来の働き方改革とは異なり、休み方を改革しようという取組です。</p> <p>特に、学校が土日休みで平日に休めないことに着目し、ラーニング（学び）とバケーション（休暇）を組み合わせた言葉「ラーケーション」が生まれました。この取組について非常に感銘を受けました。全国的に広がれば、多くのメリットがあると考えています。</p> <p>資料をめぐっていただきますと、導入のメリット・デメリットがあります。まずはメリット、休み方改革の推進です。体験格差を縮める・縮小するということにもつながるとも言われており、家族の時間も増えます。</p> <p>デメリットとしては、平日に休むことで学習の遅れが懸念されま</p>

	<p>す。あとは制度を導入することによる、教育委員会の負担が増えるというところですが、全国的に広がりつつありますが、まだ首都圏での導入は進んでいません。先進的な取組を行っている戸田市だからこそ、こういったチャレンジをすることで良い影響を与えられるのではないかと考えています。委員の皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。</p>
委員	<p>休み方改革という概念が働き方改革と同様に注目されている中で、親と子どもと一緒に体験する時間を過ごすことは非常に有意義です。しかし、制度として平日に一齐に休むことを推奨するのは現実的には難しいかもしれません。一律にラーケーションを導入するのは難しい点が多いです。</p> <p>個別の状況に応じて対応する方法が適切かもしれません。例えば、有給休暇のように年間で何日かのラーケーションを申請できる制度を設け、その日は公欠扱いとするという方法です。一齐に導入するのではなく、各家庭の事情に合わせて柔軟に対応することが重要です。</p>
市長	<p>ラーケーションは一齐に行うものではなく、例えば3日間などを指定して公欠扱いとする形になります。一部の地域では、一齐に実施している例もあるとのことですが、埼玉県の日民の日のように、特定の日に休みを設ける形での取組も行われています。</p> <p>このように、柔軟に対応できる制度としてラーケーションを導入することで、親子の時間を増やし、体験の機会を提供することができます。日民の日から始めるといった形での実験的な導入も有効です。</p>
委員	<p>背景が異なる中で親子と一緒に過ごせるという趣旨は大賛成です。その取り方については、さらに議論を重ねる必要がありますね。さまざまな家庭の事情や状況に応じて、柔軟に対応できる方法を見つけることが大切です。</p>
委員	<p>ラーケーションについてですが、これは保護者の休暇促進に繋がり、子どもたちが何らかの経験や学びを得る機会になります。皆さんで実行できればとても良いことだと思います。</p> <p>ラーケーションの目的の一つには、地域経済の活性化も含まれています。既に観光地や県レベルで実施されている例もありますの</p>

	<p>で、戸田市では観光地としての一定条件を整えたり、県のレベルで実施してみるのが良いかもしれません。</p>
市長	<p>確かに、戸田市は観光地ではありません。しかし、ラーケーションの目的の一つは、地域経済の活性化にもつながるという点です。観光地であれば訪問者が増えることで直接的な経済効果が期待できますが、観光地でなくても、地域内の家族が平日に休暇を取ることによって、地元の商店や施設の利用が増えるという効果が期待できます。</p> <p>茨城県のように県全体で実施する例もありますが、戸田市のような市単位でも、地域の特性に合わせた柔軟な対応が可能です。</p>
委員	<p>休み方改革で家族一緒に社会学習をするという趣旨には、大いに賛同します。しかし、ラーニングとバケーションを両立させるという点は確かに難しい部分もありますね。実際、家族で一緒に過ごすことも重要な学びの一つだと考えれば、必ずしも勉強を取り入れる必要はないかもしれません。</p> <p>年間3日程度の休暇でも、ラーケーションカードという計画書を学校に提出して許可を得るプロセスが必要となり、その対応が学校の負担になることは事実です。また、家庭ごとに異なる背景や状況があるため、不平等が発生する可能性もあります。特に、休暇を取れる子どもと取れない子どもが出てくることや、学習の遅れが懸念される点などが問題です。</p>
委員	<p>あとは教員の負担が増えるため、県レベルで進めるなら、市レベルよりも県が関与する方が良いのではないかと私は思います。</p>
市長	<p>今お話を聞いていると、教員にとってもこの制度にはメリットがありますよね。教員は、基本的に土日以外は本当に休めないですからね。</p> <p>それが制度として保証されていることで、安心して休めるということがあります。これが教員にとっても戸田市で働くための誘因になるのではないかなと思います。</p>
市長	<p>あとは、申請をデジタル化できれば、手続きがスムーズに進むと思います。</p>
委員	<p>デジタルの時代の中で、自然体験を一緒にするのは本当に貴重な良いことだと思います。ただ、もともと土日が仕事で平日が休みと</p>

	<p>いう家庭なら問題ないですが、戸田市には企業に勤めている方や、都内に通勤している方も多いと思います。このことについて、会社の理解がないと、平日に休むのは難しいでしょう。</p> <p>私自身も埼玉県民で戸田市が職場ですが、県民の日に一斉に休むとなると会社が回らなくなってしまいます。そういう背景も踏まえて考える必要がありますね。</p>
委員	<p>やはり会社の理解がないと、通常土日休みの保護者はやはり取りづらいと、そこをどう考えるのかな、というところです。</p>
市長	<p>企業は、年間に何日か休みは必ず取りますよね。そこに合わせて子どもと一緒に休むことができるのが、ラーケーションの良さです。</p> <p>例えば、お父さんお母さんも月曜日を休んで、子どもも土曜日、日曜日、月曜日と休んで3日間どこかに行ってみようか、という感じでの学びの機会もあります。ただ、会社単位で全部一斉に休むのは難しいと思うので、保護者の休みの時間を選べるようにすることができれば、実現可能ではないかと思います。</p> <p>しかし、教育委員会事務局や学校現場の負担が増えることも懸念されます。全く新しい取組なので、負担が増えるのは避けられないかもしれません。ただ、これは私からの強い提言として受け止めていただけるとありがたいです。</p> <p>これで、私からの議案三つを皆さんに提案させていただきました。議案1~3を通して、教育長から総括的な意見をいただければと思います。</p>
教育長	<p>まず、「健全な教育環境確保のための住宅開発抑制について」ですが、時間が経過し、根拠がなくなった規制は見直すか廃止すべきであると思います。ただし、規制をせざるを得なかった当初のリスクが完全に消滅したわけではありません。今後も気を抜かず十分な照査は必要であると考えます。危機管理の要諦は、「ダメージを最小限に抑えること」であることは肝に銘じておくべきと考えます。</p> <p>次に、教育のPRについてですが、私は、国の会議等においても、「国からの通知、論点整理、審議のまとめ、答申などの趣旨や神髓</p>

や魂といったものが、基礎自治体の教育委員会や学校に周知が徹底され、様々な関係者が腹落ちし、オーナーシップを持って日々の実践につながるようにすることが何より大切である。そのためには、『戦略的広報』に取り組む必要がある。」などと述べてきました。

私もこの10年近く例外なく毎日 facebook で戸田市の取組を SNS で情報発信していますが、広報の限界を感じています。発信と伝達は違います。伝えていても伝わっているとは限りません。そもそも SNS の限界もあります。

本市で進めてきた教育改革の取組や成果も、もっと戦略的に広報に取り組み、その内容が届いてほしいところにしっかりと届くようにしていく必要があると思います。教育関係者など対外的な PR だけでなく、保護者や一般市民にも届くようにする必要があります。

そんな中、石川県加賀市では、広報戦略の専門官のような職員を配置して、毎日様々な媒体で情報発信することで、様々なメディアに取り上げられる機会も増え、北陸地区を中心に教育で選ばれるまちになりつつあるように感じます。今後は、そうした職員の配置も考えていく必要があるかもしれません。

次に、教育 DX についてですが、いつも申し上げているように、DX という言葉の使われ方の軽さ、皮相さは、日を追うごとに顕著になっており、DX ごっこが跳梁跋扈しているように感じます。デジタイゼーションからデジタルイゼーション、トランスフォーメーションという英語は、「かたちが跡形もなくすっかり変わる」、つまりは「決定的な変化を起こす」ということを意味している言葉です。

DX の時代の教育にあっては、子供の学びを支えるリソース(時間、人材、財源)の充実と再配置が必要です。これまで「働き方改革なくして教育改革なし」をモットーに教育改革を進めてきましたが、一定の成果は表れてきているものの、まだまだ課題は山積しています。教育 DX を進めていくことで働き方改革が進み、教師本来の職務である子供に向き合う時間が増える。これにより、戸田市で教師になりたいと思う人財も増え、教育の質や魅力が向上する。そうすれば、その教育を求め、戸田市で学ばせたい、ひいては、戸田市で出産したい、子育てしたいと思う人々が増える。こうした好循環をビジョンに描いています。

戸田市のさらなる DX 化に向けて、次代を担う子供たちを育成する教育が、その先頭を走り、人的リソースを含めた組織づくりや環

	<p>境整備を積極的に進めるため、教育委員の皆様の御理解と御協力、そして市長にも様々な面で引き続きお力添えをお願いいたします。</p> <p>それから、ラーケーションの話ですが、これは個人的な見解ですが、皆さんの話を聞いていて思ったのは、学校の働き方改革にもマッチするということです。できるならやれたらいいなと思っています。ただ、今の段階では、まずは埼玉県でやってもらうのがいいかなと。そうすれば、戸田の教師といっても戸田市に住んでいる人は少ないので、埼玉県全体でやれるなら、そのよさが急速に広がると思います。</p> <p>そのため、市長会などで運動して、「ぜひラーケーションをやりましょう」と進めていければいいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。それでは、最後のその他で何かありますか。</p>
委員	<p>一つだけいいですか。すぐ終わります。</p> <p>先程お話しした生涯学習の件で、市長にぜひ考えていただきたいのが、公民館をもっといろんな人が集まれる、楽しくて明るく健全な場にリニューアルすることです。今の公民館は暗くて、年配の方が集まる場所になっていて、若い人が少ないです。</p> <p>若い人や保護者が、日中仕事をしていてもサークル等で気軽に行けるような、明るくて設備が整っている場所にする。託児施設も設置していただくと良いと思います。</p> <p>それによって、「魅力ある町だな」と思ってもらえるようになりますし、公民館の名前も少し工夫した方が良いと思います</p>
市長	<p>言葉は大事ですね、やはりイメージになる。</p>
委員	<p>施設に愛称を取り入れるアイデアを考えていただいて、新しく楽しく、皆がワイワイガヤガヤできるような公民館をぜひ主導していただきたいと思います。以上です。</p>
市長	<p>わかりました。これは大変重要な課題だと思っていますので、検討させていただきます。また、公民館の利用率が非常に低いので、何とかしないといけないと考えます。例えば、子どもの居場所にする場所にしたり、野菜販売などをして人が集まるような場にするなど、いろいろな活性化の方法があると思います。公民館を見直すこ</p>

	<p>とはすごく大事です。</p> <p>それと同時に、老朽化も進んでいるので、公民館全体の在り方を見直して、地域ごとに特徴のある公民館を作っていきたいと思います。少し時間はかかるかもしれませんが、今の公民館をどう活用するかを考えることが大切です。</p>
教育長	生涯学習は、ソフト的にも本当に頑張っていますよね。
市長	<p>頑張っています。美笹公民館で文部科学大臣表彰を受賞するなど、Wi-Fiを活かして非常にコンテンツを充実させています。ありがとうございます。</p> <p>他に何かありますか。特にないようでしたら、ここで事務局に戻りたいと思います。事務局の方から何かありますか。</p>
事務局	特にございません。
市長	はい。では予定しておりました議題を全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。
事務局	<p>はい。市長、教育長、教育委員の皆様、長時間に渡りましてありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして、令和6年度第1回戸田市総合教育会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p>

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人は次に署名する。

令和6年12月19日

菅原文仁

戸ヶ崎 勤

仙波 憲一

木村 雅文

長道 修

浜田 美咲
